

(花育活動実践事例 1)

習志野市教育研究会での花育ワークショップ事例

平成20年10月17日

全国花育活動推進協議会事務局

財団法人日本花普及センター

(実施概要)

千葉県習志野市の教育研究会での花育ワークショップとして、同市内の教員10名を対象として行った。講師には、株式会社フローレ21の高杉氏をお招きし、概要等の説明の後、アレンジメント×1個、花束(投げいれ)×1個を制作した。

日時：平成20年10月7日(火)

13:30-14:00 花育についての概要説明(事務局より)

14:00-14:15 花育ワークショップの活動についての説明(高杉講師より)

14:15-15:30 実際の花育教室の実施(高杉講師より)

15:30-16:00 作品の発表及び全体の質疑応答 意見交換

16:00 終了

場所：習志野市立実籾小学校(千葉県)

講師：株式会社フローレ21 高杉 揚子

同社は本業の花き及び花き関連資材の卸業を営む一方で、2006年10月より花育活動を開始し、現在ではイベントや品川区の児童センターで、幼児・小学生(低学年)・幼児の母親を対象に毎月活動を行っている。なお活動に当たっては「花育」という名称を親しみが持てるように「HANAIKU」とアルファベット表記にし、専用のロゴを製作している。

(以下同社ホームページより抜粋)

《フローレ21が考える花育》

花に触れる・体験することで、子供達は大自然・芸術からの感動・感激を満たすことができます。「花育」を通して、子供達に命の大切さ・喜び・感動など、豊かな心を育てることが大切だと私達は考えます。また、育児に負われている幼児のママにもこの「HANAIKU」を通して、花に触れる事により、心に余裕ができ、豊かな心で子どもに接する事ができるのではないかと考えます。

フローレ21の「HANAIKU」は、必ず季節の花を使用し、準備した花の説明をした後、花を自由に選び、あえて見本を作らないで自由にアレンジをするスタイルです。見本を作ると、それにいかに近づけるかをつい競ってしまい、ストレスになるからです。私達の目的はフラワーアレンジの上達ではありません。花に触れる機会をつくり、花を見て楽しみ、感触を楽しみ、匂いを楽しみ、花との記憶を残してほしい、花を身近に感じてほしいのです。花器は家にある物を利用し、花器を作るところから始まります。自由に花材を選び、自由にアレンジを行うので、同じ物は一つもありません。私達が教えるのは切り方や、挿し方など、ごくごく基本的なことだけです。そして、完成したら、必ず「良くできたね」、「どの花が一番好き？」などと

語りかけることで、強く印象づけるようにしています。また、アレンジに使った花の名前や今日の感想を「HANAIKUノート」に書き込み、自宅に持ち帰ってもらいます。書くことで、花の名前を覚えてもらえる事と、家に帰って家族とのコミュニケーションツールになるからです。「HANAIKU」を通して、花に触れる機会をもっとつくり、たくさんの子ども達に「HANAIKU」を体験してもらえよう、日々活動しています。カリキュラム内容はあえて、母と子どもは同じ内容で行っています。同じ体験をする事で、親子で同じ感動を一緒に分かち合ってもらいたいからです。

花材：以下の花材から6本を選んでもらう。


花名	色等	花名	色等	花名	色等
スプレーマム	黄色	リンドウ	ピンク	ワレモコウ	
"	緑 ポンポン	"	ブルー	アゲラタム	うす紫
"	白	コスモス	ピンク系	トウガラシ	赤
"	ピンク	ガーベラ	オレンジ	ソケイ	葉もの
ケイトウ	赤	"	黄色		




※参考：1人当たりの花材料は500円（卸売価格）

資材：

（各自持参してもらったもの）500mlのペットボトル×1、1ℓの牛乳パック×1
 （教室として揃えたもの）文房具一式、デコレーション資材一式

（当日の流れ）

準 備	<p>①花を揃える</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ バケツに品目ごとに固めて入れる ➤ 同じ品目で色が違うものがある場合もまとめておく ➤ バケツに花の名前を書いた紙をはっておく ➤ 季節の花を必ず入れる 	
	<p>②器の材料を揃える</p> <p>ア) 器の土台となる素材 イ) 器のデコレーションとなる素材 （100円ショップなどで安く購入できるものなどを活用するとよい）</p>	
	<p>③文房具等を揃える</p> <p>必要に応じて（ハサミ、カッター、ノリ・ボンド等、ホッチキス、セロテープ）</p>	
	<p>④フラワーアレンジ用資材</p> <p>《吸水性スポンジ》</p> <p>ア) オアシスを器に合わせて切っておく イ) オアシスを浸すための水をバケツに張っておく （→グループに1つ程度）</p> <p>《フラワーフード》</p> <p>花をいける水に混ぜて入れる抗菌・栄養剤のこと。粉タイプと液体タイプとがある。事前に希釈して用意しておいてもよい。夏場などには特に効果を発揮する。ただし、入れなくても問題はない。</p>	

	<p>⑤花レシピカード 自分がいけた花を記入するカードのこと。できあがった後に各自記入する。</p>
<p>器づくり① アレンジ用</p>	<p>(アレンジ用花器の作り方の例) 牛乳パックのまわりに色紙を貼る。</p> 
<p>器づくり② 花束用</p>	<p>(花束用花器の作り方の例) ①ペットボトルの上部をカットする。 ②切り口にビニルテープをはる。 ③まわりをデコレーションする。</p> 
<p>スポンジセッ ト</p>	<p>吸水性スポンジを水に浸す 《ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 無理やり水に浸さない(上から手で押さない)。 ➤ 水の上にポンと置き、そのまま待つ。 ➤ 時々複数のオアシスを浸す時に重なり合って一部浸らないときがあるので、その時は手で整理してあげて、全部が浸るようにする。ただし、この場合も手で上から押さない。
<p>いける前に</p>	<p>①花の名前と産地を説明する。 《目的》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 花の産地に触れることで、生徒の親戚や知り合いなどに関わりのある土地と同じ場所であるなどの場合があるため、親近感を湧くことがある。(写真1) ➤ ②花のサンプルを回して、その触感、においなどを感じる。(写真2) ➤ ③花材をバケツから取りに行く。(写真3) <p>《ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 一斉に取りに行くと混雑するため、グループ(班)ごとに分けてその代表がじゃんけんをして順番を決める。  <p>(写真1) (写真2) (写真3)</p>

花をいける	いけるときはポイントだけ決める。 ≪ポイント≫ ➤ 水がつかるところ／いけた時に葉が重なり合うところは下葉を手で取り除く ➤ 基本的にデザインはしない。(生徒の個性を生かす)	
できた人から	「花レシピカード」に自分でいけた花の名前を記入する。 ≪目的≫ ➤ 花の名前を覚える ➤ 花にさらに親しみをもってもらう ➤ 自宅に持ち帰って家族との会話の話題づくりとなる	
発表	全員が終わったら、何人かの生徒に花育教室の感想やできあがった作品のテーマなどを発表してもらおう。	
(今回できあがった作品) 		

【その他】

- 図工の時間などに花瓶や花器を制作することで、より時間を有効活用も可能となる。
- 低学年だとペットボトルを切ることが難しい場合があるので、その場合は事前に各家庭で切った状態にして持参させてもよい。
- 生徒によっては花をいける時間に差がでてくるため、早く終わった生徒への配慮も必要となる。
 (例：いけた花の絵を描かせる等)
- 校庭の花壇などで自分たちで育てた花を利用するとよい。コスト削減にもなる。
- 母親のPTA学級で行ってもよい。